

## 音楽のまち“ゆざわ” 夏の祭典

サマーミュージックフェスティバル2021が湯沢文化会館で開催されました。サクソ奏者で指揮者のオリタノボッタ(織田浩司)さん、秋田市立山王中学校吹奏楽部をゲストに迎え、小学生によるフェスティバルキッズ、中・高生奏者によるフェスティバルバンド、湯沢市出身の若手演奏家によるソロ演奏などが行われました。

市内小学校と東成瀬小学校の児童たちで構成されたフェスティバルキッズの演奏▶



8月9日



8月16日

## 湯沢の再生エネルギーがパラ聖火に

「東京2020パラリンピック聖火フェスティバル湯沢市採火式」が上の岱地熱発電所で行われました。

地熱発電を利用した採火装置は、「湯沢の再生エネルギーを東京へ」をコンセプトに、湯沢翔北高校の生徒たちが考案し製作したもの。全国で採火された火は東京に集められ、東京2020パラリンピック競技大会の聖火となりました。

◀大会の成功を祈念して佐藤市長が採火



8月15日

## 新たな門出を祝い

令和3年度の成人式が湯沢文化会館で行われました。

市では、今年から式の対象年齢を1歳上げ、20・21歳の方を対象に開催。今年は来場者を県内在住者に限定し、式の対象者424人のうち、78人の新成人が参加しました。また、当日は来場できなかった方向けにライブ配信も行われました。

決意を新たに、責任ある大人としての一步を踏み出した新成人たち▶



7月21日

## 子どもたちの成長を願い

公益社団法人湯沢法人会(会長 高嶋伸夫、写真右)から湯沢市教育委員会へ、プログラミング教材「レゴWeDo2.0」が寄贈されました。令和元年度から継続し、今回で合計60台の教材が寄贈され、市内全小学校に配置することが可能になりました。

高嶋会長は「未来を担う子どもたちに存分に活用していただき、大きく成長していただきたい」と今後に期待されていました。



7月25日

▲盛り上がりを見せた「イワナのつかみ取り」

WEB限定 広報ゆざわConnect別冊「more Connect」

市ホームページと「マチイロ」で広報ゆざわConnect別冊「more Connect(もあコネクト)」を公開していますので、ぜひご覧ください。



市ホームページはこちらから▶



## 多彩なイベント 道の駅おがちの夏祭り

「道の駅おがち 夏祭り in 小町の郷公園」が開催されました。フィンランド発祥の誰でも楽しめるニュースポーツ「モルック」の体験コーナー、地元で収穫された野菜を標的にする「輪投げ」コーナーなど多彩なイベントの中、毎年盛り上がりを見せるのが「イワナのつかみ取り」。子どもたちは「ぬるぬるする！」など歓声を上げ、苦戦しながらもつかみ取りを楽しんでいました。

## 未来への思い 百年後の皆さんへ

来年度から「稲川小学校」として統合し、今年度で閉校する駒形小学校。昭和50年に同校の100周年記念事業として、当時の児童が記念碑の中に埋め込んだタイムカプセルが掘り起こされました。

タイムカプセルから出てきたのは「百年後の皆さんへ」と題された作文や教科書、学校報などさまざま。当時の6年生を代表して掘り起こしを進めた村上透さんは、「閉校という節目を迎え、今回、確認の意味で掘り起こすことにした。本来は100年後に開けるはずのものなので複雑な心境ですが、うれしさも半分ある」と話し、参加者たちと童心に帰りながら当時を懐かしみました。



8月15日

▲掘り起こされたものは、駒形小学校の閉校式で展示予定



8月8日

## シャッターアートで商店街に彩りを

湯沢駅前の店舗に描いたシャッターアートのお披露目会が行われました。

これは駅前商店街を明るくしたいと、昨年からの湯沢駅前活性化委員会(会長 須田豊)が実施しているもので、シャッターアートを描いたのは昨年に引き続き、湯沢翔北高校3年美術部の瀧澤采未さん(写真左)と大縄心桜さん(写真右)。台風や猛暑の影響で作業が難航したため、当日はシャッターに作品を描く姿をお披露目しました。



瀧澤さんは商店街でよく見かけるといふ猫を、大縄さんは妖艶な「九尾の狐」を描き、七夕絵どうろうまつりなど「ゆざわ」の持つあでやかさを表現しました。

